

今日七夕、オリンピックの中止を求めて、思想・良心の自由（憲法第 19 条）に依拠し、私の思想・良心に基づき、正直な意見をここに明言しておかねばならない。オリンピックは、福島復興のために集中するべきであって、開催すべきではなかった。その上、COVID-19 への対応で今すぐにでも止めるべきだ。多くの国民・市民を危険にさらすべきではない。日本人の自粛行為は思想・良心の麻痺だ。強要された自粛ではなくて、個人は自ら考えて、自律して、行為に責任をもたねばならない。このパンデミックの非常事態の中で、オリンピックを強行する政治家、官僚、企業人、アスリート、賛成した国民も、結果に対して明確に自ら責任を取るべきだ。

{注：自粛は自ら進んで慎むこと。自立（対義語、従属）は自分の力でやっていくこと。自律（対義語、他律）は自分で決めたルールに従うこと。}

黍稷農季人は 2017 年 4 月 1 日に、オリンピックについて次のように書いている。原子力発電所崩壊；事故ですか？事件ですか？

チェルノブイリによって世界が変わったとまで、アレクシエーヴィッチが言ったと同レベルのフクシマ（事件）があったにもかかわらず、一旦停止した全国の原子力発電所は中央政府の政策で再稼働に向かって進み始めています。被害者を救済もせず、東京もそれなりに汚染され、今後も汚染の恐れがあるのに、それも忘れてしまおうと、東京オリンピックに資金（税金を含め）や建築資材や、色々なものが流されています。

オリンピックで一部の方々に「夢」を与えても、現実に福島から拡散した放射性物質による環境汚染は現在進行形で少しも解決に向かいません。中央政府も東京都も、ぜひともオリンピック開催を速やかに返上して、フクシマ原子力発電所への対処、地震被災地への復旧・復興支援に全力をかたむけるべきだと考えます。

強度に汚染された地区には帰らないで他所に移住すべきです。政府と東京電力は第一に全面的な責任を取って、この地区の人々の移住補償をすべきです。何とか低度汚染地域である東京などでは、ベラルーシの高校生たちのように、内部被爆を避ける暮らしぶりを学び、実行すべきです。私は、家族の食材はできるだけ自給農耕し、汚染地域の食材は用いないようにしています。「風評被害だ、非情だ」と言われても、問題は未だに解決に向かっていない以上、ベラルーシの高校生たちのように家族や地域社会の安全を確保することが大事です。情緒に流されず、現実をよく見て、各自が判断すべきです。東京も低度ではあれ汚染されているのです。どこまでが我慢できる程度なのかは、過去に事例が少ないので、分かりません。フクシマを「差別」というのは問題のすり替えで、あってはならないことで、本質は現実を隠さないで、強度汚染地区の人々の生活に関しては無条件全面保障をすることです。

たまたま、映画化された東野圭吾著『天空の蜂』をテレビで見た（2021. 6. 10）。いつもながら半分眠りながらの視聴なのでまことにあいまいな記憶で脈絡が定かでない。自動操縦のヘリコプターがハイジャックされ、原子力発電所の上空でホバリングしており、そこにいたずら半分で乗ってしまった子供を自衛隊の遭難救助隊が助けると言ったストーリーだったようだ。

改めて、文庫本を読んでみることにした。映画は小説の前半を中心に描いていて、簡略

化されていたようだ。なぜこのような事件を犯人らが起こすに至ったのかについては後半に書かれていた。原子力発電所について詳細に調べて描き込んである。だが、この小説の主題は日本の社会における「不気味な仮面で覆い隠して沈黙する群衆」に対して投げられた一石ということと受け止めた。

昨今の権力者たちの虚偽、隠蔽、脅しなどの悪行、重犯罪には憤怒しかない。いとも同列である沈黙する群衆の犯罪。彼らは沈黙によって権力犯罪に手を貸しているのに、被害者面するこの国の群衆。その絶望的悍ましさ。この国の大半の人々には勇気がない。少し脅されると黙り込んでしまう。だから、人々は互いに信頼関係を築けずに孤立し、心を閉ざして引き籠もる。本当に優しい人たちは憤怒を他者に向けて暴力化しないので、自らに向けて暴力を行使して自殺する。哀しいことに、優しすぎる人には自殺が最終的恨みを晴らす手段になってしまう。しかし、毒人間にとっては他人の自殺や病死など何の損害にもならない。多くの人々は皆、賢明にも仮面をかぶって、毒人間と関りを少なくして、やり過ぎ、糾弾することはしない。

#### ○ 福島の原子力発電所、国と東京電力の責任

- 1) 地震、津波対策の巨大防波堤は日々の暮らしと海を遮断する。人力が自然に挑むのではなく、自然に応じて計画対策すべきだ。
- 2) 原子力発電所は計画的にいずれ止めるべきだ。
- 3) 被害者の移住を少しでも早く、費用などは保障し、賠償すべきだ。
- 4) 汚染を拡散しない。放射性廃棄物は福島の原子力発電所周辺にとどめる。

#### ○ 教養のない政治家、官僚、専門家などが名利に囚われる責任

- 1) 虚偽、隠蔽を平然とする良心が弱い毒人間が少なからずいる。
- 2) 日本人の多数、特に若者たちが権力や権威ある人への信頼を失う。これは虚無に導く、不幸な重大犯罪だ。
- 3) さらに孤立を恐れ、脅しに弱くなった心無い日本人は自粛し、思考停止する。勇気を出して、深く学ぶために、事実を見る、聞く、読む、知る、考える、学ぶ、書く、話す、そして行動するべきだ。
- 4) 恥ずかしい老人は確かに多いが、世代を分断したい評論に惑わされず、良い人同士は年齢に関わらず、手をつなごう。
- 5) 事実の積み重ねから真実を理解し、どう責任を取らせるのか？ 各自がどうとるのか？
- 6) 深く学び、考えることから未来に希望が見いだせる。

#### ○ 現場の仕事人

- 1) 職種や肩書によらず、現場の仕事に誠実な人は誇りをもって大概 3K（危険、きつい、汚い）だ。生活基盤に近い職業・産業を世間は 3K、カッコ悪いとして貶めた。楽して金が儲かる業種をもてそやした。こうして、若者たちの職業への先入観をゆがめさせ、就業を猶予させた。
- 2) 学校教育履歴ではなく、個人学習履歴や職業経験履歴こそが正当に評価されるべきである。日本人はいい加減に学校教育履歴への狂信から目覚めて、堅実に、自由に職業選択をすべきだ。
- 3) 大学は職業を忌避する若者の仮住まいだ。若年失業率が低いのは、若者の半数が大学に

いるからだ。彼らが誇りをもって職業経験履歴に向かえば、海外からの技能実習生は適正数になるだろう。

\* 養老孟司の師中井準之助は長らく大学で暮らした人だが、「教養とは、人の心がわかる心だ」と仰っていた。養老は先を続けて言う。他人の心は理解できない（バカの壁）が、共感是可以。相手の立場に立って考えることはできる。教養は単なる知識ではなく、自分の身につくものだ（養老、東京人 2018）。

現実には薄汚いかもしれないし、ほとんど絶望的な状況、奈落に向かっているかもしれない。そういつている評論家も多いが、子孫の笑顔のために、何としてでも、私たちは希望を見つけねばならない。手をつないで、一緒に行動しましょう。

この一文に不備があれば、今後も修正します。